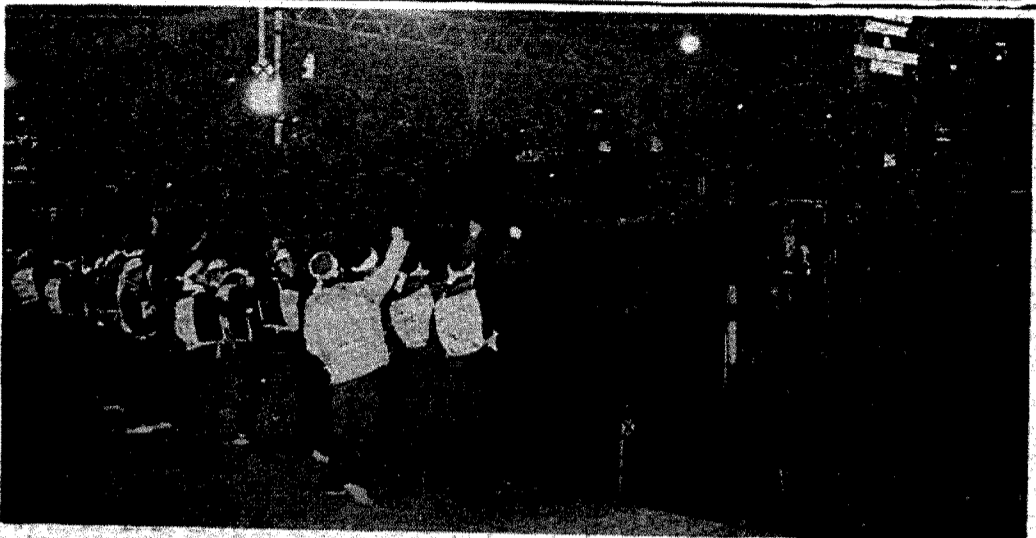


# 新左翼

記事紹介

- 二面 カマと竹槍の闘魂②
- 三面 三里塚の闘い
- 四・21尼崎反戦の総括討論
- 全大阪地区反戦連絡会議が
- 新しいアイランド革命



## 13時間の縦断スト

### 機関助士 国・動労が共闘 廃止反対

国鉄労組(二十八万人)と動力車労組(六万人)は、電気・ディーゼル機関車の機上停止に反対して共同闘争を、十月二十五日から順次開始し、さらに南北縦断線にわたる全国二百五十所の機上停止、十月三十一日午後七時から翌一日一日午前八時半まで十三時間半におよぶ、国鉄労働運動史上かつてない大ストライキを敢行し、佐藤内閣政府の肝をひやさせた。わが国の独占資本は大衆かつ急進的な国鉄労働運動の発展のために、貨物運賃を極端にひくくおぼせる一方、国鉄労働者の二六万五千人の首切りと徹底的な合理化、旅客運賃の大幅な値上げを企てている。国鉄当局は機上停止にもなる安全問題は一切解決せず、独占資本の高度・大衆・低料運賃による犠牲を、一切国鉄労働者と国鉄人民におぼせようとして、機上停止を一方的に強行しようとしている。四十二年以来三年間の長期間にわたって国鉄労働者は、この大ストライキによって一応の結核をみただけである。機上停止は十五日に全国大会をひらいて、決議内容の批准をうながすが、組合員の不満はますます、はげしい議論がおこられると予想されている。

(写真) ストライキに突入する長距離列車の乗務員を激励する国鉄労働者たち。31日夜(大阪駅)

七十一年闘争の大きな盛り上がりの中、国鉄労働者もこの大ストライキに突入した。この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。

た、この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。この大ストライキは、国鉄労働者だけでなく、動力車労働者も参加した。

(一) 七〇年代を闘い抜き、革命への闘争をすすめていく労働運動の建設をめぐって、新左翼諸派は奮闘している。各派の労働運動に関する方針、ないしは考え方の共通点、第二に現在の労働運動の状況と労働組合の果たすべき役割について、日本の労働運動全体が直面している問題である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。

これは、第一に現在の労働運動の状況と労働組合の果たすべき役割について、日本の労働運動全体が直面している問題である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。

これは、第一に現在の労働運動の状況と労働組合の果たすべき役割について、日本の労働運動全体が直面している問題である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。

## 大衆に依拠して 闘いを堅持しよう

視 点

七〇年代を闘い抜き、革命への闘争をすすめていく労働運動の建設をめぐって、新左翼諸派は奮闘している。各派の労働運動に関する方針、ないしは考え方の共通点、第二に現在の労働運動の状況と労働組合の果たすべき役割について、日本の労働運動全体が直面している問題である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。その根源は戦後、労働組合は生かされていくという認識である。

### 紙代値上げについて

新しい革命的戦術の中で奮闘しておられる諸兄弟と共に進み、発展してまいりました「新左翼」も、最近の打撃と諸君の情状、特に印刷関係の高騰により、現状では、その発行が非常に困難になっております。

私達は、この点を諸兄弟に訴え、「新左翼」の発行を維持し、さらに前進するため、十一月より紙代を単上げすることを決定しました。

事情の上、一冊の三協定、ご支援をお願い致します。

一部 三〇円 一月 一〇〇円 半年 五〇〇円 一年 一〇〇〇円 (各半年共)





アイランドはヨーロッパで反帝民族解放戦争を闘った最初の民族である。ジェイムス・コノリーが組織したアイランド市民軍は、レーニンによると「現代ヨーロッパにおける最初の赤軍」である。

### 植民地化した北部

経済的には、北部はイギリスの植民地である。北部はイギリスのペーコンの三分の一、シヤットの二〇%を生産している。ランド・アン・ド・ウォルフ有界社は北部最大の従業員をかかえている。ここではミサイル、船舶とクレインを作っている。この会社の最大の株主はアリストートル・オナンスだ。

一九四五年以来、北部は警察国家である。スト・モントのカイライ政府は、ロイヤル・オレ・ンジ・オクターとして知られているプロテスタントの団体によって動かされている。彼らはアリスト、反カトリック、反セム族一派の十万人からなる集団で、専断であるユニオニスト党を創立した。

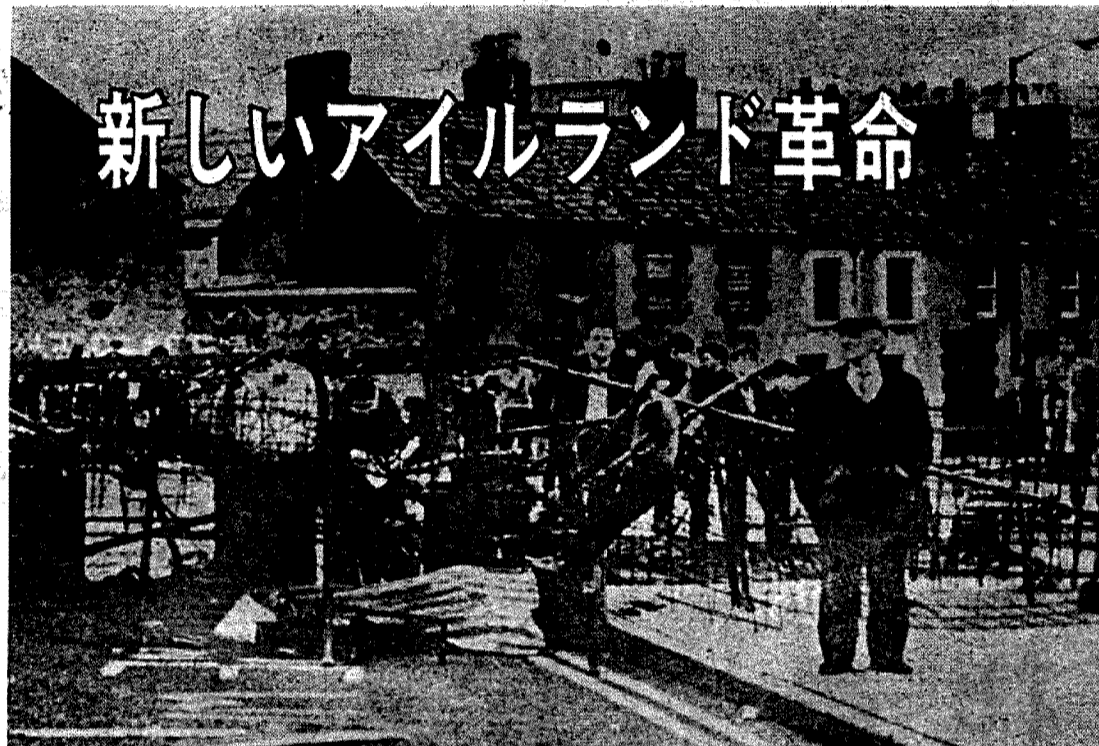
法と秩序はイギリス軍、王室ワルスター警察と最近作られた二つのグループ、ウルスター・プロテスタント義勇軍とB・スベシャルによって維持されている。義勇軍はイアン・ペイスリーが組織した二万人の自衛隊である。ア・ブルジョアの息子たちに基礎をおく義勇軍は、大資本の支持がないというたまたまだけの理由から、一人前のファシスト連動になりおいている。義勇軍は軍事主義の政治方針に大きな影響を及ぼしている。

### 汚れた富

アイランドに「黄金時代」の花が開いたとき、またヨーロッパは暗黒時代であった。社会の基礎は共同体的土地所有であった。氏族制度と呼ばれていた社会は、地方分権化されており、其業がなされた。ジェイムス・コノリーによると「アイランドの首長の地位は、氏族の土地地権が首長の私的な裁判官権から余り分離されていなければ、人民が事実上監視していた」。

氏族制度は一九四九年にオリバート・クロムワエルの下でイギリスによって強制的に破壊され、イギリス統治下の大農場(Plantation)制度におきかえられた。庄政者は外国人でありプロテスタントであった。ここでアイランドの独立の主張はカトリックと結びつくことになった。数万人のイギリスのプロテスタントは、アイランドの土着の農民を追いだした北アイランドに土地をもちつた。おいだされたアイランドの農民は、自分がかつて所有していた土地の労働者となるか、あるいは山や森林で無法者になった。

意識の高いアイランド人は、地主制度がカトリックの敵であると同時に、プロテスタントの敵であることを理解した。実際に初期の反乱の指導者ウォルフ・トーンとロバート・エメットはともにプロテスタントだった。一九九〇年代にトーンは、



## 新しいアイランド革命

「われわれはどんな危険を冒しても自由を持ちたい。われわれは地獄の大多数の尊敬されない階級に財産をもっていない人びとへの助けをかりて、自らを解放するであろう」

と宣言し、カトリックの地主が運動の指導者として反対した。

一七九八年の農民暴動は、土地を持たない農民を基礎にし、トーンの秘密革命結社、「ユニオン・アイルランド」によって指導された。フランスの武器援助はそれは到着しなかった。フランスの武器援助は失敗した。トーンは、条約が決してアイランド解放をもたらさずイギリスによって虐殺された。何千人もの人々が虐殺され、オーストラリアやニューシリアン大英帝国の枠内で南部アイランドに自治権が認められ、コノリーは殺された。

アイランドを南北に分断する条約が調印されたとき、南部では条約共和主義者とその反対派との間で内乱が起っていた。反対派は、条約が決してアイランド解放をもたらさずイギリスによって虐殺された。何千人もの人々が虐殺され、オーストラリアやニューシリアン大英帝国の枠内で南部アイランドに自治権が認められ、コノリーは殺された。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

と農民をこつと結びつけることによって、五十年間ずっと北部アイランドを支配してきた「ユニオン・レフト・レブリュー」のなかでピター・キボンは次のようにいっている。

「このプロテスタントは歴史的に地主階級によって指導されてきた。それはプロテスタントイデオロギイによって統一されている。それはオレンツ・オクターの暗黒制度によって統合されている。」

「このプロテスタントは北部の階級闘争を統制している。彼らはイギリス保守党の行軍をもちろかに反労働者の政策をとっている。彼らは労働組合が、ユニオニストから国家主義者、共和主義者、社会主義者、共産主義者まで多くいるから反ユニオニストだと、みなしてユニオニスト党に対する反対派の立場は決してかばいしものではない。ナショナルリスト党の政策は八十年間変っていない。その政策は教権的保守主義であり、その社会的基礎はカトリックの地主、借地農と農業プロレタリアートの一部である。ナショナルリスト党はカトリックの労働者階級のなかにある深刻な不満をおさえてきた。」

### 新しい革命

反乱はベルファストにあるクイーンズ大学の学生から始まった。中産階級とテラブルジョアジは彼らの宗教的・文化的基礎からなれ、一九六八年の全世界的な学生反乱にあおられた。彼らは急進的に過激化した。

現在の「市民権を持った」運動は、これらの過激な学生、不満をもったカトリックの中産階級といたげられたカトリックの貧民である。一九六八年一月にデリー居住地区行動委員会は自治の不法と市議会議決の直接行動を始めて呼びかけた。民衆の下からの圧力が強大したために「北部アイランド市民権の会」(NICRA)一年前に結成された自由主義的なグループが、デモを呼びかけざるをえなくなった。

八月にタンガンへむけての初めてのデモ行進、すなわち初期の住居区抗議行動は、警察のバリケードによって阻止された。二回目のデモ行進は十月にデリーへむけて出発したが、警官が暴徒となつておいかつた。王野ワルスター警察はカトリック居住区をなぞるが、いまもわたり、労働者たちをなぞりおかし、警察をこわした。バリケードが街頭につくられた。要甲車がバリケードを破るまで、三日間民衆はバリケードを守りとおした。

一月にベルファストから出発した学生のデモ隊によってさらに暴動は拡大した。デリーの入り口はバリケードと火焔ビンで自衛した。

「教団デリーのボクサイド(貧民街)に、入りを禁止された。労働者はバリケードを築き、自分達の民兵、自分達の委員会、自分達のラジカ放銃をつくりだした。彼らは自由都市を宣言した。さらに武器デモと占拠がユニオンにわたった。ここにあった警察の装甲車は、この地区の兵士によって破壊された。三月四日「市民権」運動は、ウルスターの社会の均等状態を粉々にしてしまひ、その内部にあったいくつもの矛盾を暴露した。このとき以後激的な政治的変化に入ったのである。」(ピター・キボン)

### 革命的な潜在力

アイランドが革命まえの段階にあることは明らかである。八民権運動は米国の反体制勢力よりも革命的な力をもっている。なぜならユニオニスト党はわずかな改良をも身をもてることができないからである。ユニオニストの考えは階級間の裂け目をますます拡大している。彼らは北部における階級闘争をもとめる唯一で最も強力な勢力であったが故に、彼らの階級化は階級闘争の可能性をつくりだした。

革命に勝利するためには、カトリックの規模な農民(最も抑圧されている部分のひと)、開発された地域にプロテスタントの労働者階級、増加する失業に悩まされている後落地区のプロテスタントとカトリックの労働者、半熟練とパートタイムの失業労働者、完全失業者、過激派の学生と共和主義階級が、ともに統一しなければならない。

「ピールズ・デモクラシー」のメンバーであるイモン・マクカンは次のようにいっている。「革命思想がイギリスの労働者階級と同じように、アイランドの労働者階級の性合をなすという決意は決してない。誰かが革命を呼びかけるとき、実際に彼が何を要求しているか、それはいつもコノリーと結びついているし、一九一六年の武装蜂起と結びついている。」

これにつけ加えてミカエル・ラファエルは次のようにいっている。「ブルジョア民主主義と民族国家の伝統は、アイランドで最近過激化したものであり、この伝統は武装蜂起やある種の革命の伝統と比較して、つよいものではなない。」

アイランドはひとつの国家であり、他でもない。私がこの文章を書いているときにも、デリーではまた最悪の戦況が起つていゝ。イギリス軍がやつてきたのだ。社会主義的側面だけがカトリックとプロテスタントの労働者階級を団結させることはあきらかである。北と南の社会主義革命だけが、ふたたびアイランドを統一させるであろう。

それはヨーロッパで最初の社会主義革命となるかもしれない。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

「われわれはカンリック、プロテスタント、デイスター(非国教徒のこと。プロテスタントイデオロギイの国教となつていゝ非国教徒の名前を、アイランド人という共通の名前にとりかえなければならぬ」と、トーンは断言している。この言葉は、いまもアイランドに響きわたっている。

(THE MOVEMENT, SEPTEMBER 1969) 記者 佐竹芳松

(三面よりつづき)

ゆえに階級しない階級は、労働者の思想的階級の大事業を自ら放棄するものである。これは階級闘争の発展法則、マルクス主義に對する不忠を自ら表明することにならないのだろうか。

革命は自分が放棄するから、その大衆が立上つてやるのであり、階級はその手段であり武器である。大衆の階級を階級は決して代行するとはできない。現在階級形成の上にあるからといって、この点をいまいかにしていいというには決してならない。(〇)